

二〇二〇年二月五日

枯蓮自信の持てぬ骨密度

よし子

夕ばえの波うち際に島千鳥

素 秀

葛湯搔くコツは湯かげん混ぜかげん

よし子

秋惜しむ琵琶湖周遊船の旅

よう子

遅しき蘭の花芽や冬ぬくし

はく子

炭焼の煤けし顔の八重歯かな

かかし

短命の手相の筈が日向ぼこ

うつぎ

小春日や裾野の煙狼煙めく

愛 正

風捉え風をいなして芒の穂

よし子

千枚田天地返しに落葉鋤く

かかし

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二〇年二月六日

茅葺に飛び火せんとして紅葉燃ゆ

うつぎ

万歩計ノルマも兼ねて医者通ひ

宏 虎

鈍色の冬空覆ふ畜舎かな

なつき

出で立ちは鬼滅の刃七五三

こすもす

短日や島の灯早もひとくさり

わかば

切通し抜けて藪道笹子鳴く

素 秀

工場の灯の点滅に浮寝鳥

素 秀